こども未来づくり100人委員会

こども未来づくり１００人委員会

こども未来づくり
１００人委員会とは

子育てしやすい・したいと思えるまちにするため、
多様な立場･世代の皆さんが集い、参加者それぞれの立場で「何ができるか」を考え、
アクションにつなげる場として、
２０２４年（令和６年）３月２４日に委員会を立ち上げました。

１００名の募集に対して１６１名の方に応募していただき、
その全員に委員として参加していただきました。

委員の内訳

- 子育て世帯 ８９名
- 子育て支援団体 保育関係者 ２３名
- 市内企業の従業員 ２９名
- 高校生 １０名
- 大学生 １０名

委員メンバーに聞きました！

Q: 委員会に参加した感想は？

・「子育てしやすいまちにするために積極的に行動している人がたくさんいることを実感した」
・「刺激を受けた」
・「一人では気付けない課題や可能性に気付けた」

Q: あなたができることはどんなことだと思いますか？

・「子育てが楽しいことであることを実感してもらえるような機会や経験を提供する」
・「こどもに積極的に声をかける」
・「こどもや保護者の居場所づくり」

Q: 委員会を通じての思いの変化は？

・「行動を起こそうと思った」
・「こどものために活動している人や団体がいることを知った」
・「委員会が終わっても活動を続けたい」

こども未来づくり応援団

こども未来づくり１００人委員会の取組に賛同いただき、

子育てや仕事との両立に関して深い知見をお持ちの８名の方に

応援団になっていただきました。

委員の皆さんが多様な視点で議論できるよう、助言や事例の紹介をしていただきました。

池本 美香さん
株式会社日本総合研究所
上席主任研究員

兼子 大輔さん
フレンチレストラン「L'AS」
オーナーシェフ

木下 ゆーきさん
タレント
子育てインフルエンサー

小村 佳子さん
株式会社 peekaboo
代表取締役

坂本 直子さん
Lazo Running Team 代表
アテネオリンピック
女子マラソン日本代表

柴田 悠さん
京都大学大学院
人間・環境学研究科教授

広井 良典さん
京都大学
人と社会の未来研究院教授

吉田 正幸さん
保育システム研究所
代表

第1回 こども未来づくり100人委員会

100-person committee to create a future for children

日　時　2024年（令和6年）3月24日（日）13:30～16:20

場　所　福山市役所本庁舎3階大会議室

Program

- オープニング
- 市長挨拶
- こども未来づくり応援団の紹介
- こども家庭庁　岩崎企画官による基調講演
- ワークショップ
- 発表
- 記念撮影

こども未来づくり100人委員会スタート！

自分たちでも出来そうなことは

日頃感じている困り事について解決するためのアイデアを出し合う

他のグループのアイデアをみて「いいね！」と思ったものに★シールを貼ろう！

全体に発表

ふむふむ

ペラッ

次回以降に進めてみたいテーマを決めよう！

こどもがおもいっきり遊べる場を作りたい！

もっと情報発信していきたい！

子育て世代でつながるには？

子育てに関する悩みなどを相談できる場所を作りたい

保護者が息抜きできる時間を作りたい

委員の感想

- 熱い思いの方ばかりで勉強になる
- 福山が変わる気がする
- 様々な世代の意見が聞けてよかった
- 自分だけではできないことも協力すればできそう
- こどもの未来を考えている人たちがたくさんいることに感動した

第2回 こども未来づくり100人委員会

100-person committee to create a future for children

日　時　2024年（令和6年）5月26日（日）13:30～16:10

場　所　福山市役所本庁舎3階大会議室

Program

- オープニング
- こども未来づくり応援団（柴田 悠さん）による取組事例の紹介
- 部会の設置
- ワークショップ
- 発表

課題解決に向けた取組を整理するため「なぜ？」を深めて要因分析をしました！

16グループのテーマについて、内容が近いグループを集めて3つの部会を構成しました。

部会1
地域とつながる子育て支援部会

部会2
仕事と子育ての両立の推進部会

部会3
こどもや若者を支える意識・環境づくり部会

委員の感想

- 話し合いが具体的になってきた
- 実現に向けた方向性が見えてきた
- メンバーと交流できてよかった
- 他のグループの発表が勉強になった
- 要因分析を通して問題の本質に気づくことができた

第3回 こども未来づくり100人委員会

100-person committee to create a future for children

日　時　2024年（令和6年）7月6日（土）13:30～16:00

場　所　福山市役所本庁舎3階大会議室

Program

- オープニング
- こども未来づくり応援団（坂本 直子さん）による取組事例の紹介
- ワークショップ
- 発表
- 第4回委員会までの準備

市民・企業・子育て支援団体 それぞれの立場で何ができるか検討しました！

STEP 1
「実現したいこと」に対する「実現に向けた取組」を検討

STEP 2
「取組に何が必要か」を洗い出す

STEP 3
実行するための具体的な「取組の計画」を検討

STEP 4
次回までの準備（情報収集、ヒアリング、現地視察など）をグループで話し合う

STEP 5
同じ部会のグループに発表

委員の感想

- 他のグループとの意見交換が刺激になった
- 議論している内容を実践できそうな気がする
- 次回までに実際に取材をすることが決まった
- 前回までよりさらに具体的になった
- 「自分たちにできること」について話し合うことができた
- 有意義な情報交換ができた

第4回 こども未来づくり100人委員会

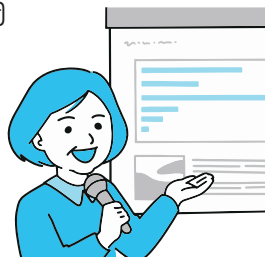
100-person committee to create a future for children

日　時　2024年（令和6年）9月7日（土）13:30～16:10

場　所　福山市役所本庁舎3階大会議室

Program

- オープニング
- こども未来づくり応援団（池本 美香さん）による取組事例の紹介
- ワークショップ
- 発表



前回議論した内容や作成したシートをブラッシュアップ

第3回委員会終了後の情報収集、ヒアリング、現地視察などの内容を共有！

身近に頼れる大人がいると安心だよね！

こども同士交流できないかな？

参考事例をもっと探そう！

違う部会のグループに発表・意見交換！

委員の感想

- メンバーが自主的に情報収集している
- 活動のゴールが見えてきた
- これから具体的にどう取り組んでいくか話し合えた
- 行動変容に何が必要か分かってきた
- どんどんチームワークが良くなっている
- 応援団の方のお話が勉強になった

第5回 こども未来づくり100人委員会

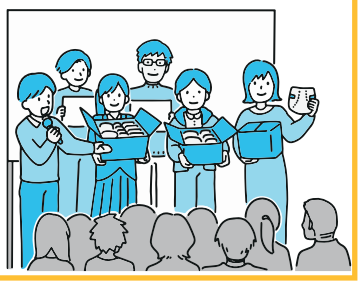
100-person committee to create a future for children

日　時　2024年（令和6年）11月9日（土）13:30～16:00

場　所　福山市役所本庁舎3階大会議室

Program

- オープニング
- ワークショップ
- 「福山市こども未来づくり宣言」の案について



シートの完成をめざし これまで議論してきた内容をまとめて 最終発表に向け準備！

委員の感想

- 最終回で議論の成果を発揮したい
- 今までの議論を改めて整理することができた
- グループの人と話し合うのが楽しい
- 実現の可能性が高い内容になった
- 今後もチームとして動いていけそう
- 活動や宣言が広く知れ渡っていくことに期待

第6回 こども未来づくり100人委員会

100-person committee to create a future for children

日　時　2024年（令和6年）12月15日（日）14:00～16:35

場　所　福山市役所本庁舎3階大会議室

Program

- オープニング
- こども未来づくり応援団からのメッセージ紹介（前半）
- 市長挨拶
- こども未来づくりプラン（発表）
- 福山市こども未来づくり宣言（発表）
- こども家庭庁　吉村企画官による挨拶
- こども未来づくり応援団からのメッセージ紹介（後半）
- 副市長挨拶
- 閉会・記念撮影

こども未来づくりプラン

各グループで議論した内容を
「こども未来づくりプラン」としてまとめ、
最終回で発表しました。

「福山市こども未来づくり宣言」

委員の皆さんに議論していただいた内容をまとめて作成しました。
市民・企業・子育て支援団体等にこの宣言の内容を幅広く伝え、浸透させることで、
社会全体の行動変容につなげていくことを目的としています。

Group-1

「寺子屋食堂」

様々な世代が自由に集える
食事・勉強・遊び・コミュニケーションなどの場を提供

・寺子屋食堂にだれでも自由に集まり、食事・勉強・遊び・コミュニケーションを通して様々な世代と交流することで、地域のつながりの活性化をめざす
・参加者とボランティアの境がなくなるのをめざす
・次のサイクル（次代のボランティアを育成）をめざす
・放課後から 19 時まで過ごせる場所をめざす

現状の問題・課題

①頼れる人が身近にいない
②地域とのつながりが減り、様々な世代との交流ができていない
③こども食堂は貧困家庭が利用するという誤ったイメージがある

参考事例・備考

食材調達→大型スーパー、農家、寺の協力
資金→商工会議所の支援
　　社会福祉協議会や市への提言
場所→展示場、商店街、コミュニティセンター、寺や廃校など
情報→小・中・高・大に情報を提供
　　（ボランティアで参加要請）

各主体の役割・取組

市民
・サポーター登録を募る
・農家の協力
・大学生やシルバー世代の協力
・職場体験を通して中・高・大学生を育てる

企業
・資材、食材の提供
・大型スーパーの協力
・地域企業の集合体

子育て支援団体
・交流館の活用
・社会福祉協議会の協力
・ネウボラ推進課に補助金依頼
・地域企業の集合体

Group-2

「世代を越えてつながる居場所」

既存の市民活動を周知することで
新たな活動参加メンバーが増える流れをつくる

まずは既存の活動をより多くの人に知ってもらうことで
新たな活動参加者が増えるように促し、
世代を越えてつながる居場所の規模拡大をめざす

現状の問題・課題

①地域内の交流が減った
②市内の情報が分散している
③交流館が借りにくい
④開催場所の確保が難しい

参考事例・備考

・地元企業
・フードバンク福山（NPO 法人）
・ほっこり食堂（場所の提供）

各主体の役割・取組

市民

・既存のボランティア活動に参加する
・物資の提供（食材など）
・企業への呼びかけ
・周囲の人への呼びかけ

企業

・HP上で既存の活動情報の整理
・物資の提供 (食材/衣類等)
・場所の提供
・地域活動の支援
・支援金/補助金/助成金の提供

子育て支援団体

・場所の提供
・団体同士での情報共有
・情報発信

Group-3

「“やわらか頭とココロ”(創造的な思考力)を育てるコミュニティ・スクールをつくる」

学校・企業・地域が一体となった福山版コミュニティ・スクールを！
コンセプトはこどもも大人も“楽に楽しく”

コミュニティ・スクールの知名度を高め、
こどもが色々な経験や学びを通じて創造的な思考力を身につけるために、
学校を中心として地域と企業の協力関係を築いていく
福山版コミュニティ・スクールをつくる

現状の問題・課題

①学校と地域のつながり、地域の中のつながりが薄くなっている
②こどもたちは、色々な経験や他者との関わりが少ない
③地域・組織の業務の重複、業務の負担感
④CSの認知度が低いし関心がない
⑤CS を導入すると、地域や学校に負担感が増えると思われている

参考事例・備考

重複した地域行事のスリム化
・学校参観日と地域文化祭の共同開催
・地域運動会と学校運動会を合体させる
地域の課題にこどもたちが挑戦する
成功事例をまとめて提案する

各主体の役割・取組

形骸化させない！共通認識を持つ！

市民

・地域が一体となって当事者として CS に積極的に参加し、こどもたちの成長に関わる
・重複している業務/組織を整理するスリム化や効率化で、CSに関わる負担を軽減し、楽に楽しく関わる

企業

・こどもがリアルな体験ができるように企業は資源/専門性等を提供する
・地域に企業を知ってもらう場とする

子育て支援団体

・子ども会育成会/居場所づくり/PTA/放課後等デイサービスの役割の再構築
・まちサポとの連携

Group-4

「こどもだけで安心して出かけられる場所づくり」

学区内に児童館を
～こどもが安心して遊べる場所づくり～

・こどもが学童保育に行かなくても自由に出入りできる遊び場
・市内に室内遊び場はあるが、こどもが自分で行けるような距離ではない
・遊び、宿題、工作などこどもの成長に必要なことを自由にできる場所

現状の問題・課題

①場所がない
②交流館は各学区にあるので活用したい（現状はサークルなどを作らなければ利用できない）
③見守りの人が必要

参考事例・備考

・小学校の図書館開放
・交流館、町内会館は個人利用できない

各主体の役割・取組

市民
・見守り支援をする
・市へ詳しい要望を出す（気軽に意見を言えない）

企業
・場所提供、資金提供
・ネーミングライツ
・地域の企業の特色を活かす児童館づくり

子育て支援団体
・見守り支援
・場所提供

Group-5

「子育てに特化した コミュニティナース的活動」

「つながり」「集め」「発信」し，「つなげていく」
～地域のコミュニティのハブを福山に根付かせる仕組み～

・情報の集約・発信
・地域とつながり、つなげる
・人とつながる、つなげる
・より楽しく、おもしろく、安心して子育てできる環境をつくる

現状の問題・課題

①地域では顔が見える関係が薄れ、こどもたちが安心して過ごせる環境が減っている
②地域には素晴らしい活動やコミュニティがあるが横のつながりが弱く、つなぐ「ハブ」となる存在がない

参考事例・備考

・特定非営利活動法人親子ネットワークがじゅまるの家（鹿児島県徳之島町）
・こどもの居場所「コランネ」（こども第３の居場所）

各主体の役割・取組

市民

【役割】コミュニティナースと連携を図り、地域の子育てを盛り上げる
【取組 】認定制度を利用して自身もコミュニティナースとして活動

企業

【役割】スポンサーとして活動を支援
【取組】従業員のコミュニティナースとしての能力を評価して報酬に反映する

子育て支援団体

【役割】子育て世代のインフラとしての役割を引き続き担ってほしい
【取組】情報の連携や発信をコミュニティナースに対しても行う（情報連絡会）

Group-6

「子育て世代のための託児付きおしゃべりランチ会開催」

子育て世代が気軽に集える「あのねカフェ（仮）」を開催

子育て世代が気軽に集うことができる「あのねカフェ（仮）」の中で
子育て世代が抱える課題を抽出し、
行政に届ける仕組みをつくる

現状の問題・課題

①子育て世代が気軽に集まって話せる場所がない
②各機関の取組や意見を取りまとめたり、行政に届ける仕組みがない

参考事例・備考

行政も広報を行う
（「あのねカフェ（仮）事業」という記載があれば、公共施設にチラシを設置可能にしてほしい）

各主体の役割・取組

市民

・イベント情報を収集し、積極的に参加する
・アンケートに協力することで感想や要望を積極的に伝える
（アンケート収集はデジタルで行う）
・場所や人を提供できる場合は協力会員として登録する
・依頼団体として「あのねカフェ(仮)」を開催する

企業

〈委託企業〉
「あのねカフェ(仮)」の企画運営
〈協力会員〉
・場所の提供
人(見守りボランティア)の提供
広報

子育て支援団体

・場所の提供
・人（見守りボランティア）の提供
・広報

Group-8

「家事支援・病児保育・週４日勤務の推進」

幸せな子育てのために必要な取組

・子育て世代の負担軽減
・親と子が一緒に過ごせる時間の充実

現状の問題・課題

①ワークライフバランスがとれない
②病児保育は施設が少なく
　利用しにくい
③こどもとの時間がとれない

参考事例・備考

・ワークシェアリング
・東京・大阪・名古屋 家事支援施策
・ユニセフ子ども幸福度調査

各主体の役割・取組

市民

・啓発活動
・情報発信（口コミ）

企業

・就業体制の見直し(希望制で週４日勤務を導入)
・福山市による子育て支援認定（行政）
・企業内託児所

子育て支援団体

・病児保育をするための場所を提供(NPO･市)

Group-9

「夜間利用できる総合福祉施設（15:00~8:00）」

総合福祉施設

昼・夜間問わず対応可能な子育て支援施設の機能拡充をめざす

現状の問題・課題

①日中以外のサポートが少ない
②時間・曜日などにとらわれないサポート体制がない
③相談する/行く等の方法を考えることができない人もいる
④児童館がない
⑤交流館やコミュニティセンターにキッズスペースがあっても不衛生で使用しづらい

参考事例・備考

・オープンチャットの活用
・メタバース
・市の電子掲示板活用
・イベント実施

各主体の役割・取組

市民
・子育て支援に関する情報の取得
・施設の積極的な活用
・情報の発信

企業
・協賛を募る
・施設の積極的な活用（従業員へ施設を利用するように周知する）

子育て支援団体
・既存施設を活用
・ネウボラセンターの機能強化
・小/中学校が施設見学

Group-10

「公共施設（廃校や既存施設）を利用して集える場所をつくる」

公共施設（廃校や既存施設）を活用し気軽に集える場所をつくる

全ての世代の人が気軽に集える場所がないため、
交流館や廃校を活用し、市内各地に集える場所をつくる

現状の問題・課題

①全ての世代の人が集える場所がない
②情報発信の活用ができていない
③場所、予算、人材の不足

参考事例・備考

明石市
天文科学館などの体験型施設が充実しており、家族で集いやすい場所が多い

各主体の役割・取組

市民
・学生への協力依頼
（高校生・大学生）
↑
SNSの利用などで呼びかけ

企業
・企業の広告イベントなどで場所と簡易遊具を提供してもらい市民と企業の橋渡しをする
・体験型施設や移動式プレイルームなど親子で集まりやすくするためのイベント協力

子育て支援団体
・NPO法人の育成

Group-11

「“子” 育て環境の充実」

企業の外部評価制度の導入と
子育て支援ポータルサイトの構築

仕事と子育てを両立するために、市全体で子育てをしていく仕組みが必要で、
子育て支援情報のワンストップポータルサイトと
行政による企業の外部評価制度導入をめざす

現状の問題・課題

①企業が子育てを推進するための仕組み作りが不足している

②既存制度のわかりづらさ、広報不足

参考事例・備考

・子育て情報がわかりやすい他市事例
明石市、流山市

・ポータルサイトの機能
保育園の入所状況確認
給付金や入所等の申込（電子申請）
予防接種情報等の通知

各主体の役割・取組

行政

・企業に対する外部評価団体をつくる
・理想の環境をめざせるように、多角的な評価基準を準備する
（ex:男性育休、時短勤務、職場内出生率）
・必要な情報にアクセスしやすく、電子申請もできるポータルサイトの作成（ex:子育て支援部署の中に子育て情報特化の広報部門をつくる）

企業

・外部評価の結果に基づく働き方改革
・企業の子育て推進の取組が浸透することで、職場の仲間からの理解を深めてもらうことをめざす

Group-12

「誰でも隔てなく来れる こどもの居場所をつくる」

こどもの孤立を防ぐ居場所づくり

放課後児童クラブや放課後等デイサービスは利用制限があり、
こどもの居場所が不足しているため、こどもたちが自由に集える居場所をつくる

現状の問題・課題

①幼児期を過ぎたこどもが自由に過ごせる場所がない
②放課後児童クラブや放課後等デイサービスは利用できる人が限定される
③こどもが自由に自分の気持ちを話せる（こどもの権利が大切にされる）場がない
④こどもの心の避難場所・ヘルプを出せる場が必要

参考事例・備考

・居場所の候補…交流館や放課後児童クラブ
・期間・場所を限定したモデルから始め、5年後は各学区へ拡大
・こどもが1人でも行けるように
・できれば夜遅くでも行けるといい
・ネウボラの方が居場所を巡回することで心配な子を早くキャッチできる
・学習機会もつくれたら不登校支援にもつながる

各主体の役割・取組

市民

・若者に対する理解を深め、行政に思いを届ける
↑各ボランティアの情報を活用できるよう手配をお願いする。（キラキラ/親プロ/ファミサポ/スクールサポートボランティア等）
・縦割りをなくしてみんなで一緒に居場所づくりを！
地域の高齢者にも参画してもらう。

企業

・スタッフを派遣
・資金や運営費をサポートする
↑企業版ふるさと納税つくる等
・場の提供もする

子育て支援団体

・居場所として活用可能な場所を調査する
・大学生とも協働して居場所運営する（単位にできるといい）
→教員志望者にもいい学びになるのでは

Group-13

「出産前に知っておくべき知識や経験を得る場を提供」

子育てが楽しく、豊かな経験であると
思えるような場づくり（オンラインを含む）

子育てが大変という悪いイメージを払拭するため、
出産前に必要な知識や経験を得るイベントや場・情報を発信する

現状の問題・課題

①子育てが大変というイメージがある
②子育てが楽しいという実感がない

参考事例・備考

・徳島県神山町 鮎喰川コモン
まちのリビングを参考にしている
・市民・行政・企業・子育て支援団体
４つの組織を連携させるコーディネーターが
必要（市議など市民による選出）
・iti SETOUCHIの活用
（2階のデッドスペースなど）

各主体の役割・取組

市民

・既存の活動や場所をどう
活用するか考える
・意見を収集するボックスを
支所・交流広場に設置
・コーディネーターの選出

企業

・場の管理
（オンラインを含む）
・情報の収集/振り分け/発信

子育て支援団体

・福山市オリジナル認定
ファシリテーターを育成する
・場をファシリテートする
（オンラインも含む）
・認定は年齢等で制限しない
（例：小学生でも本人が望めば、
保護者等大人のサポート
があれば参画できる）

行政

【コーディネーター】
・市民/企業/行政/子
育て支援団体を連携
させるための要
・全てのコンプライアンスの
整備と保守をする専門家
との連携

Group-14

「権利等の教育の充実」

自分の権利を主張するために
こどもたちへ権利教育を

こどもたちが主体的に行動できるようにするため、
コミュニティスクールを活用し、権利に関する知識を深めていく

現状の問題・課題

①全ての市民が自分の権利を主張できるようにするため
②こどもたちが不満や悩みがあっても伝え方が分からない/解決法がわからない/相談（アドバイス）できる場があまりなく利用しにくい
③こどもたちと保護者以外の大人の接点が減り、大人がこどもの社会をあまり知らない

参考事例・備考

・「学校へ行こう週間」
・ふくやま地域若者サポートステーション
・ファミリーデイ
・ライフサポート休暇

各主体の役割・取組

市民

・コミュニティスクールで議論する
・「学校へ行こう週間」等で積極的に学校に行ってみる（こどもの環境を知る）

企業

・こどもの権利に関する研修を行う
・参観日休暇を創設
・企業参観日の実施

子育て支援団体

・福山市LINEに法律や権利に関する情報を提供する機能を追加
・スクールカウンセラーの機能充実、相談窓口の設置
・サポステの学校版をつくる

Group-15

「子育て定期便」

地域で見守る
子育て用品配布と相談支援

子育て世帯の経済的・精神的支援をするため、
子育て用品を配布する際に相談支援もあわせて行う

現状の問題・課題

①物価高騰による経済的負担の増加
②子育て中は孤立しやすい
③子育てに関する情報が不足しやすい

参考事例・備考

品川区：見守りおむつ定期便
神戸市：こべっこウェルカム定期便
明石市：おむつ定期便
尾道市：ぽかぽか おむつ定期便

各主体の役割・取組

市民

・子育て世帯のニーズを
ヒアリングする

企業

・物資や機会を提供する
・物を受け取る仕組み
づくり

子育て支援団体

・子育て支援情報を
集めて発信する

Group-16

「福山ローカル特化 SNS をつくる」

毎週ワクワク！
福山のこどもと楽しめるおでかけ情報を発信する！

「どこを見たらいいかわからない」「今日どこ行こう」「発信したいけど方法がわからない」
こどもと楽しめるおでかけ情報を求めているパパ・ママと、
イベント情報を発信したい企業・団体、
全福山市民のニーズをキャッチする情報発信サービスの立ち上げをめざす

現状の問題・課題

①イベント情報がわかりづらい、探しづらい
②市が発信する情報には制限がある
③地域とのつながりが減ってきて、情報が不足しがち
④イベント開催する人の情報発信場所がない

参考事例・備考

・自治体サイト
（神戸市：こどもっとこうべ園）
・情報サイト
（Hug Mug：ライフスタイルマガジン）
→デザインがかわいい

各主体の役割・取組

市民

・0～10歳の保護者、保育・学校関係者にヒアリングを実施
・一緒に運営/投稿/情報提供してくれる人を募る
・イベント開催している人にヒアリング

企業

・専門知識をもとにどんなサービスにするか一緒に考える
・出資

子育て支援団体

・ヒアリング実施
・子育て支援情報を整理
・一緒に投稿/情報提供してくれる人を募る

Group-17

「ママパパが息抜きできる場所の創出のためにつながりをつくる」

保護者が息抜きできる居場所づくり

子育ては孤独になりやすいため、
気軽に交流ができるような保護者が息抜きできる居場所をつくる

現状の問題・課題

①地域のつながりが希薄
②こどもに関して共通の話題で話せる場所がない

参考事例・備考

・コミュニティスクールの活動のひとつに保護者が関われたらいい
→保護者にとっても居場所になる
・「誰でも食堂」としての位置づけ
・保護者がこども食堂などに関わる
・現場の声を届ける⇒活動の質を高める
・色々な大人が関わることで地域全体で子育てができる

各主体の役割・取組

市民

・子育て支援情報をSNSを活用して発信
・地域内で「保護者」的な役割を求める
・回覧板とかでお年寄りの力を借りたい！アピールしていく
・若者の力（学生や地域の若者）のボランティアを募る

企業

・企業内に子育てなどの相談できるスペースを設ける
・地域とつながる窓口になってくれるような担当者を考える/作ってもらう

子育て支援団体

・こども食堂の活動範囲を広げる（保護者の居場所づくりも目的に）
※こども食堂の負担が増える課題がある
・こども食堂→こども&大人食堂
・こどもを通じて大人もつながることができる活動をしている団体とつながり、協力する

福山市こども未来づくり宣言

こども未来づくり 100 人委員会は、

福山市を子育てしやすい・したいと思える

まちにするために、同じ志を持った 161 人が集結しました。

福山市と、市民・企業・子育て支援団体が協力してアクションを起こし、

誰もがいきいきと自分らしく活躍しながら、地域一体となってこどもたちを

育て、こどもや若者を尊重する社会をめざすために議論を重ねました。

議論を進めていく中で、「様々な世代が集える居場所づくり」・「働き方改革の推進」・

「子育てに関する情報発信の充実」・「こども主体の教育の推進」の

４つの重点的な取組にまとめました。

これらに基づき、それぞれの立場で取り組む方向性をここに記し、

「こどもまんなか社会」の実現に向けて実行していきます。

また、福山市は、これらを市の計画や施策に反映し、取り組んでいきます。

市民

・助け合いの心を持ち、相談や交流の場に積極的に参加します。

・共育てを実践し、地域活動に積極的に参加します。

・活動や取組の内容について情報を発信します。

・こどもや若者の意見を聞き権利を尊重します。

企業

・市民や子育て支援団体が行う取組に参画し、応援します。

・柔軟な働き方を促進し、社員の子育てや地域活動に協力します。

・子育てに関する情報を企業の内外に発信します。

・こどもを中心とした、経験や学びの場を設ける活動に協力します。

子育て支援団体

・既存の施設や取組も活用し親子や地域の方が集える居場所づくりに協力します。

・働く人たちが仕事と育児を両立しやすい環境を整えます。

・子育てしている方同士の交流や、情報交換をする機会を提供します。

・こどもの創造性や自主性を育む活動や教育に取り組みます。